



サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

宣教の働きは、ドン・ボスコが手本を示したように、出会い、耳を傾けることから始まります。

技術、ソーシャルメディアは、そのおかげで迅速に青少年とつながり、福音を広く分かち合い、距離を乗り越えることができ、コミュニケーションと福音宣教の力強い助けになります。それでも、真にサレジオ的な出会い、人と顔を合わせて出会うことは、何ものにも代えられません。

ある高齢の宣教師が私に言いました。「若者はビデオや映像、オンラインのメッセージに引きつけられるかもしれない、でも若者たちの心に残るのは、我々が耳を傾けたこと、一人ひとりを名前で呼んだこと、一緒に遊んだこと、傍らで共に歩んだこと、そういったことなんだ。」そういったことは、信頼と友情を築き、神に開かれた心を育みます。

サレジオのコミュニケーションとは：共にあること。ドン・ボスコは、友情、慈愛、共にいる喜び、オラトリオの家庭的精神をもって子どもたちの心を勝ち取りました。そして、キリストに導く教育を行いました。今日、デジタルの手段は価値あるものですが、人間的な親しさがまず第一に大切です。

若者は、ただ情報を求めているのではなく、理解されること、受け入れられること、共に歩む仲間を求めています。一回一回のメッセージや映像の投稿の前に、出会いに備えた心をまず整えることです。

友人の皆さん、テクノロジーを賢明に活用しながら、ドン・ボスコのように、サレジオ的な出会いをミッションの中心に据えましょう。共にあること、慈愛、最も貧しい青少年への愛をもって。

Fidel Orendain

■ 広報顧問
フィデル・オレンダイン神父, SDB

人間：人のいのちを尊ぶ



教会は常に、あらゆる段階における人のいのちを擁護しなければならないと教えてきました。すべての人のいのちは**神から来るものである**ため尊いと、「カトリック教会のカテキズム」は私たちに思い起こさせます。したがって、キリスト者は、いのちを傷つけることを避けるだけでなく、すべての人の尊厳を擁護し、育み、促進するよう、呼ばれています。すべての人のいのちは、神の似姿に、神にかたどられて創造された神聖な賜ものであり、永遠に生きよう定められています。人間の尊厳は、年齢、健康状態、資産、人種、出身、宗教、能力に基づくものではありません。すべての人は、受胎から自然な死に至るまで、尊重され、保護され、愛されるにふさわしい者である — この真理を、教会は変わることなく宣言し続けています。サレジオ会会憲は、人間のいのちの満ち満ちた成長を促進する教育を青少年のために行うよう、私たちに招いています。**キリストに向かう人の全人的な幸福のための計画に従ったサレジオの教育と福音宣教**は、まちがいがなく、人のいのちの擁護に寄与する、私たちの貢献となっているでしょう。

人のいのちを大切にすることは、あらゆる文化、信条、伝統に見られます。例えば、メラネシアでは、いのちは共同体の中で分かち合われ、守られ、祝われるものとして理解されています。子どもの誕生は喜びをもって迎えられ、お年寄りには知恵と祝福の源とされています。しかし、現代のさまざまな問題は、いのちの尊厳を脅かしています。貧困、家庭崩壊、家庭内暴力、部族間の対立、妊娠中絶、高齢者の疎外、薬物依存、人身売買、環境破壊、格差の拡大は、人間のいのちを危険にさらしています。今日、いのちを擁護することは、人々が尊厳をもって生きられるよう、これらの状況に対抗することを意味します。私たちは教育者として、**いのちのための声となるよう呼ばれています**。それは次のようなことです：

- ・生まれる前の子どもたちを守り、母親、家庭を支える。
- ・病気の人、障害者、高齢者、弱い人々を大切にすること。
- ・青少年に平和、正義を、腐敗と闘うことを教える教育。
- ・女性や子どもを虐待、搾取から守る。
- ・被造物を大切にすること。環境破壊が人のいのちを傷つけるため。
- ・薬物依存の問題、暴力に立ち向かう。

人のいのちを尊ぶ社会は、平和な、正義のある、希望に満ちた社会になります。いのちが神聖なものとして大切にされるとき、共同体は強くなり、家庭はより深く一致し、将来の世代は尊厳と信頼をもって生きることができるのです。

■ バヌアツ、ポルト・ヴィラのドン・ボスコ・ユースセンター
モイゼ・パルク神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 挙げられた6つの点のうち、自分の日々のミッションに最も近いと感じるのは？ 他方、投げかけられている挑戦として最も感じられるのは？
- 自分の経験から、どのグループの人が最も忘れられ、見過ごされる危険があると思うか？



ウクライナ：戦禍のなか、日々生活はつづく



グリゴリー、今月、私たちは、人間のいのちが尊重されるよう祈っています。あなたは戦火に引き裂かれた国、ウクライナにいます。そのような状況で、人のいのちを尊重するような生き方は可能なのですか？

私たちが毎日直面する危険、死にもかかわらず、人々はとても組織立って働き、生活を営んでいます。仕事をし、夢を見、人を助けています。たくさんのボランティア・グループが生まれ、軍や難民を支援しています：前線を逃れてきた人たちのために食糧、衣類、仕事などを提供する受け入れセンターが出来ています。いのちを落とした兵士の家族の支援を続け、前線で大切な人を失った母親や子どもたちになぐさめを差し伸べています。

身動きの取れなくなった人たちを救出するため、自分のいのちを危険にさらしながら避難支援チームに加わり、戦闘地域に入るボランティアもいます。あらゆる困難にもかかわらず、前線から5キロ、10キロしか離れていない場所にさえ、道や、電気、水、ガスの供給設備を修復する人たちがいます。人々は、生きる意欲を失くした人たちを支え、前進するのを助けながら、いのちを大切にし、いのちのために闘っています。このことは、ウクライナ国民全体について言えるのです。

最も危険にさらされているのはどのような人たちですか、サレジオ会は何らかの形でその人たちを助けることができていますか？

私たちサレジオ会は、2022年に戦争が始まって以来、共同体に難民を受け入れてきました。「マリア・ポリス - マリアの町」というセンターを運営し、前線から避難してきた千人以上の人たちがそこで暮らしています。食糧を提供し、仕事を見つけルヴィウ市の地域共同体に溶け込めるよう助けています。紛争が始まって以来、9家族以上の難民がルヴィウに近い私たちの共同体で暮らしています。

私たちの管区には、2人の従軍司祭がいます。私とオレフ神父です。オレフ神父は、敵によって切り離されてしまったウクライナのドニプロペトロウシク地域で、私はクラマトルスクとスラビャンスクの間にあるドンバスで働いています。オレフ神父はまた、サレジオ国際援助ボランティアVISと協力し、ドニプロ地域全体にわたって物資、資金、医療の支援、霊的な支援を提供しています。私たちは二人とも、絶えずいのちの危険にさらされながら暮らし、働いています。

私はいつも若者たちと一緒にです - 一か月から一か月半、ほとんど前線で過ごします。車を運転し、負傷した人を非難させ、霊的な支援、心を支える支援を差し出しています。5、6人の若い兵士の組の指導司祭になっています。すばらしい経験ですが、危険に満ちたものでもあります。まさに戦闘が行われている場所に私たちはいるからです。

ウクライナの人々は、将来の希望をどこに見いだしていますか？

歴史を理解しなければ、どのような答えも理解できないでしょう。私たちの歴史を、最も重要な人物を盗み取り、平和を奪い、経済的、文化的、霊的な成長を奪う東の隣人に、ウクライナの人々はうんざりしています。私たちの最大の願いはこの戦争が終わり、私たちを生かしてくれない人々から解放されることです。

ウクライナの人々は希望のうちに将来のために闘っています、なぜなら私たちはいつも楽観的で、創意豊か、いのちと夢にあふれているからです。何も恐れません - 労苦も、困難も、敵も。私たちは常に前進します、それは大きな希望を与えてくれます。いつの日か、世界に知られる自由な国になる、そのとき私たちは幸せになるという希望です。



グリゴリー・シュヴェド神父, SDB

ウクライナ、テルノピルに生まれ、学業を終えると司祭になることを決意、サレジオ会について知り、ルヴィウで同会と出会う。スロバキアで最初の5年間の養成を受け、その後、トリノ・クロチェッタとローマで3年間を過ごす。2014年より、ルヴィウから5キロ離れたヴィンニキーの共同体で暮らし、ルヴィウで従軍司祭として働いている。ウクライナUKR管区のもう一人の従軍司祭は、兄弟会員オレフ・ラズニュック。



7月
サレジオ
宣教の
祈りの意向

人間

人間のいのちが尊ばれるように
(教皇レオ十四世の祈りの意向)

すべての段階における人のいのちを神の賜物として認め、
その尊重と保護のために祈りましょう。
(サレジオ会の宣教の祈りの意向)

カンボジア

